

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100461		
法人名	特定非営利活動法人 わたぼうしの家		
事業所名	グループホーム さんぼみち		
所在地	釧路市千歳町13番7号		
自己評価作成日	平成29年1月16日	評価結果市町村受理日	平成29年4月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosvoCd=0174100461-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成29年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されている方々のホームであること、また、9人個々のその人らしさを大切にするというホームの方針を職員は認識し日々より良いケアを提供するために、話し合いや、研修を重ねている。長年暮らしてきたその人らしさを大切にホーム全体が、ゆったり・のんびりできる環境をつくっている。その日のまた、入居者やその家族との信頼関係を密にすることが、重要である。その事により、家族の理解・協力が多く、ホームの運営が成り立っている。また、地域に根差した取り組みを行うことで、地域の方々のさんぼみちへの理解・協力も得られている。

当事業所は閑静な住宅街にあり、事業所前の道路は、春採湖周囲5kmの遊歩道に通じ利用者の散歩コースになっている。居間は広く清潔で天窓から暖かい陽が射し、対面キッチンから利用者の居室が全室見渡せ、コンクリート敷き土間のサンルームは床が広く餅つきにも利用されている。高齢により介護度は高いが、利用者は明るく穏やかに出来る範囲で調理の手伝いや片付けなど行っている。地域との交流も、町内会に加入し町内の盆踊りなどに参加したり、事業所の行事(クリスマス、餅つき大会など)には家族をはじめ多くの地域住民、ボランティアが参加している。災害時には拡声器でサイレンを鳴らすと地域住民が駆けつけるなど地域住民との協力体制が出来ている。職員の育成にも力を入れており、職員は年間研修計画に基づき研修に参加し、より質の高いケアに努めている。家族やかかりつけ医、訪問看護師などと協力し看取りも経験している。利用者は居室に籠ることなくゆったりと居間で過ごしたり、お天気の日には散歩に出かけたり家族、地域住民、職員に見守られながら穏かな日々を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場合グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームさんぼみちが、地域密着型サービスであることを踏まえ、法人及びホームの理念を理解し、共有、実践に努めている。	事業所独自の理念「共に支え合い、安心して老いられる地域づくりを行う」などを作り、その実践に向けケアの4つの約束を掲げ、職員会議等で確認しあい共有して、日々のケアの中で実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初から、行事の参加交流や、通信などの配布で、地域の一員として、溶け込めるホームづくりに努めている。	町内会に加入し、地域行事(盆踊り、花火大会など)に参加したり、事業所の行事(茶話会、餅つき大会)には多くの地域住民の参加がある。近年は児童館との交流もあり、児童センター餅つき大会に参加するなど地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設当初から、行事の参加交流や、通信などの配布で、地域の一員として、溶け込めるホームづくりに努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民や児童館、包括支援センター、消防などホームに関わる方々の出席を頂き、ホームの実態をお伝えし、今悩んでいる事や、困りごと相談。それについてアドバイスを頂き、実践。更なるサービス向上に活かしている。	地域包括支援センター職員、家族、町内会長、消防署、警察、地域住民などが参加して定期的に年6回開催している。運営状況、行事、事故などを報告し、参加者から意見やアドバイスを得てサービス向上に活かしている。消防署員から避難時の布団の使い方等のアドバイスを頂いている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から、市の担当者や連絡を密にしながら、ホームの実情や積極的な取り組みを伝え、協力関係を築くよう努めている。	市担当者には管理者や事務長が出向いている。実情やケアサービスを伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。情報等のお知らせはメールで得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	様々な研修や、会議などでの周知徹底で、意識を高め「身体拘束をしないケア」に努めている。ただし防犯上の理由により、夜間のみ施錠を実施している。	マニュアルを作って会議の中で話し合い外部研修や内部研修に参加しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ドア1カ所だけドア鈴をつけているが小さな音である。安全面から施錠は夜間のみである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止法などについて、日頃から周知徹底、また研修を重ね、防止に努めている。		

グループホーム さんぼみち

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度についての研修を受ける機会は少ないが、入居者家族が、成年後見人としての役割を担い、状況を伝えて頂き、それを通して理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、また、制度改正時等の際は、利用者またその家族が納得いくよう丁寧な説明を行い、理解して頂き、必要に応じ、同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、利用者またその家族との報連相を密に行い話しやすい、また意見や要望を出しやすい環境づくりに努め、それらを真摯に受け止め、運営に反映させている。	利用者とは日頃の関わりの中から、要望の把握に努め、家族会は2か月に1度開催している。家族と職員の関係が良く、訪問時や家族会等で意見や要望を聞き、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な、会議を設け、運営状況について話し合っている。その中で、意見や提案を具体化出来る様努めている。	職員会議を開催し、運営状況について話し合っている。管理者は話し易い雰囲気作りにも努めている。年1回個人面談も行い職員の意見を反映させている。但し、新採用職員については、まだ個人面談は行っていない。	新採用職員についても個人面談を行い、個々の特性を伸ばせるよう意見や提案を聞くことを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意識向上に繋がる、職場環境の整備に、日々努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を多く確保し、より質の高いケアを提供出来る様また、意見交換ができる環境づくりに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定期的な研修会や自主研修の活動を通して職員間の交流ができる取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居段階で、ご本人の不安や要望を聞き取り、安心を確保できる関係また環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始時、家族等がそれまで困っていたことや不安なことを聴き、関係性をつくりながら、信頼感を得られるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居段階で本人のわかる事、わからない事、できる事、出来ない事を理解・把握し、その人らしく暮らせる支援の対応に努めた。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者本人とグループホームで様々な事を共有する者とし、またその関係性を築くことに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者に、その人らしく暮らしていただく為には、職員と家族の関係が、良好でなければならない事を十分理解している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの馴染みの関係が、途切れない様にお付き合いのある人との関係支援に努めている。	家族と理美容院に行ったり、買い物に職員と出かける等関係が途切れない支援をしている。ボランティアの集まりに出かけたり、知人が来訪したり、外泊する人もいる。利用者が馴染みの関係を継続できるように支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が、一人も孤立することなく生活するために、入居者同士の関わり合いが、大切である。入居者同士の関係を把握しながら、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者が、退去してもその家族との関係を保ち、必要に応じて、相談・支援に努める。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			おん			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりその人らしく暮らすために、本人の意向を把握しました、その支援に努めている。	日常の暮らしの中から利用者の1人ひとりの意向を把握している。意思が伝えられない人にはケアプランや家族と話し合い本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や暮らし方を把握し、また、それを大切にしてい事に努めたい。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が、グループホームで自分らしく暮らすには、また、どのように暮らしたいか、その人のできる事、心身の状態を把握することに努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が、より良く暮らすために、日々の状況を記録した介護記録やアセスメントシート、モニタリングを基に、入居者・家族の意向を踏まえて職員会議やカンファレンスで検討、介護支援専門員が、介護計画を作成し、家族の承認を得ている。	利用者の担当職員を決め、日頃の生活状態を記録し、前回の計画をモニタリングしながら家族や利用者の意向を踏まえて介護記録・カンファレンスを検討し、介護支援員が現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人に、より良いケアを提供するために、様々な情報を把握、共有しながら実践、また、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期入居や、共用型通所介護を取り入れているが、1ユニットでは、限界がある。しかしながら緊急時に自費にて、受入するサービスができるスタイルを構築していきたい。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	豊かに暮らしていくためには、ホーム内だけでは限界がある。地域資源の活用をさらに広げていく事が求められる。具体的には、地域の活動に参加する。地域のボランティアさんの来訪で関わってくれている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を聞きながら、かかりつけ医と良好な関係をつくり適切な医療を受けられる様支援している。	かかりつけ医は家族が対応している。家族の要望で職員が対応する事もある。訪問診療医が月2回、訪問看護師も2回訪問し健康管理を行っている。利用者の要望により歯科医や皮膚科の訪問医療も受けられる。		

グループホーム さんぼみち

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護を受けている。必要な情報を提供し、また、入居者の健康に関する相談、適切なアドバイスを受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は、病院関係者との綿密な関係づくりを行い、安心して治療、また、早期に退院できる様、情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の重度化や終末期については、ホームの方針等について、入居時・家族会・あるいは個別等で話し合い、具体的な段階に来た時には、十分な説明をし、また、家族と共有しながら支援に取り組んでいる。	ターミナル指針を作り契約時利用者と家族に説明している。年に1度は家族会の中で話している。具体的になってきたら家族に再度説明しながら方針を共有し医療関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時に備え、必要な応急手当などの研修や訓練を重ねている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や各関係機関の指導を受けながら、災害時に避難できる方法を身に付けられるよう地域住民の協力を頂きながら訓練を重ねている。備蓄品については、近隣高台の法人施設に保管している。	消防署職員の立ち合いの下半年2回災害時避難の訓練を行っている。(夜間想定と昼想定)訓練時には地域住民の協力も得ている。備蓄品は近隣の高台にある法人施設に保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「一人ひとりの尊厳を守る」を基本理念に掲げ、人格を尊重した、言葉かけや振る舞いに配慮している。	内部研修や会議の中で利用者の人格・尊厳を話し合い、1人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない日常生活の中で、その人らしさが、十分発揮できる様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	グループホームさんぼみちは、入居者さん一人ひとりのホームである。また「生活の場」であることを意識し、本人の希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは勿論の事、メイク等で、好きなおしゃれができる様支援している。		

グループホーム さんぼみち

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備(材料切り・味付け・盛り付け・配膳・後片付け)等と一緒にする事で、より食事が楽しみになるよう、そのための支援を行っている。	利用者の嗜好を把握し献立を立てている。利用者の残存能力により、味付け、盛り付け、後片付けなどを行っている。畑の収穫物が食卓に上がり話が盛り上がっている。職員も、時には訪れた家族と一緒に食事を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態の安定には、栄養バランス、摂取量、水分量等々の把握が必要である。病気のレベルが低下しないためにも十分な支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内を清潔にすることは、気分を安定させ病気の予防にも必要不可欠である。そのために十分な支援を心掛けている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ、おむつをしないケアに努めている。そのために、本人の排泄状況を把握し、そのための支援をしている。	利用者の排泄の時間をチェックし記録している。声掛けを行いトイレでの排泄を支援をしている。日中は出来るだけ布パンツで夜に紙パンツと使い分けしている利用者が多く、排泄の自立に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が引き起こす様々な影響を理解し、運動・飲食物の工夫等、個々に応じた予防に努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。重度の入居者については、2名介助で入浴している。入浴する気にならない方には、間をおいたり、言葉かけを工夫するなど、無理強いはいしない支援をしている。	毎日入浴出来るように準備し、週2回以上は入浴するように支援している。入浴を楽しめるように根気よく支援をしている。重度の利用者には2名介助で入浴を支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して、気持ちよく眠れるよう居室の温・湿度や照明・音や寝具など配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬に関して、十分理解し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが、毎日活気あるまた、穏やかな日々が過ごせる様、その人の発揮できる役割や楽しみ事などの支援をしている。			

グループホーム さんぼみち

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的にホーム周辺の散歩、食材や日用品などの買い物に出かけている。また、年間の行事での外出の他、ご家族の協力で、散歩や買い物へ出かけることも楽しみの一つになっている。	天気の良い日は事業所周辺を散歩したり、食材や日用品の買い物に出掛けている。年間の外出行事も楽しみにしている。花見等は家族と現地で集合して一緒に楽しんでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状態に合わせ、お金を所持または、使える様支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が、馴染みの人との関係をつなぐためにも、電話で話す時や年賀状・手紙のやり取りができる様支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「生活の場」として居心地の良い環境に、配慮、工夫に努めている。	居間に月刊予定表や献立表を掲示している。掃除も行き届いている。台所からは利用者の居室が全室見渡せるようになっている。天窓から入ってくる陽が暖かく明るい。お雛様が飾られ(2月末日)利用者も居室に籠ることなくゆったりと居間で寛いでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所づくりは、生活環境として充分配慮することが大切である。そのため、ホッと一人になれる空間づくりとして、ホーム内には、ソファや椅子を置き、工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室は、本人が長年使い慣れたものや好みのものを活かし居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室のクローゼット下が袋戸になっている。ベットの上や周りに荷物がなく居室は歩行しやすく避難や地震対策が出来ている。本人が使い慣れた物や家族写真を飾り居心地よく過ごせるように工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりがまだ「わかる事」や「できる事」を発揮し、その人らしい生活のために、安全な環境づくりに努めている。			